

第4回	糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議 記録簿		
日 時	平成30年11月6日 14:00-16:00	場 所	糸魚川商工会議所会議室
出席者	委員：白沢賢二委員、青木資甫子委員、小林大祐委員、本間寛道委員、木島嵩善委員、小出薫委員、土田満委員、野村祐太委員、松木美沙子委員、猪又直登委員、小竹貴志委員、竹田しをり委員、丸山剛委員、室川亜紀委員 アドバイザー：伊藤薫氏、江口知章氏、西村浩氏 ファシリテーター：吉崎利生氏 (欠席) 齋藤伸一委員、小坂功委員、齋藤里沙委員		
(協議内容)			
<p>1. 開会 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定刻のため、第4回糸魚川市復興まちづくり市民会議を始めさせていただく。本日の次第は、お手元の配布資料に記載させていただいたとおりである。</li> </ul> <p>2. 委員長挨拶 (委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>糸魚川地域連合区長会の取組で、上越市立水族博物館「うみがたり」に視察研修を行った。今年6月にオープンしたばかりであるが、来館者は既に50万人を超え盛況な施設である。株式会社横浜八景島が指定管理者となり管理運営を行っているが、館長は30代でとても熱心であり、ここにしかないものを大切にすること、時代の流れを捉え常に先を読む必要があることを仰っていた。</li> </ul> <p>3. 議事 (1) 今までの検討状況と今後の進め方 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回では、復興まちづくり計画における位置づけ、これまでの検討状況について説明した後、3名のアドバイザーから事例紹介をいただき、新たなまちづくりについて見識を深めた。</li> <li>第2回では、ワークショップ形式によるグループワークを行い、にぎわいのイメージの共有を図るとともに、にぎわい定義を5点にまとめた。</li> </ul> <p><b>【にぎわいの定義】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>市内から市外から、目的を持って街に人が集う</li> <li>糸魚川に魅力を感じた人たちが、たくさん訪れている</li> <li>駅に降り立った人たちが、街中を回遊している</li> <li>住民同士の結びつきが強く、たとえ一人でいても寂しくない</li> <li>街の環境整備が行われ、利用されている</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>第3回では、にぎわいの変遷をたどりながら現状を把握し、にぎわいの定義をもとに、3つのグループに分かれて地域の目指す役割や具体的な取組のアイデアを出した。</li> <li>本日の第4回は、市長及び会頭への中間報告となる。</li> </ul>			

- ・ 今後は資料3のとおり提案書を作成しながら、資料4のマップに落とし込むことを想定している。
- ・ 最終回には資料3、4を用いて、市長・会頭への最終プレゼンを行う予定である。

## (2) 各グループによる中間報告

(ファシリテーター吉崎氏)

- ・ グループごとに、発表、市長及び会頭との意見交換、アドバイザーからの講評を行う。

### 【グループ「暮らしシェア」の発表】

(委員)

- ・ 昭和40～50年代は、商店があり住宅があり、にぎわいは自然発生していたが、現在では、企業は市外に出て行ってしまい、にぎわいがなくなってきた。
- ・ にぎわいは目的であって、手段ではない。
- ・ これまでの取組でうまくいかなかったケースは、個々の活動が単独の活動になっているように見えたため、それらをつないでシェアする概念を取り入れれば取組が上手くいくのではないかと考えた。
- ・ 空間やモノなど物理的なシェアだけではなく、知恵、人脈などソフト面のシェアも取り込みたい。
- ・ ターゲットは、子育て世代、働き世代、学生、U・Iターン移住者を想定している。
- ・ 具体的な姿は、なりわい・子育て・空間（お店、居住）のシェアである。
- ・ 悩みや知恵を共有するスペースを整備し、そこに高齢者など知恵袋的な人も呼び込みながら、知恵をシェアしていく。そうすることで、子育て世代が街中で出会い、仲良くなる。また、高齢者とのつながりも発生し、にぎわいが出てくる。
- ・ これらの取組を支えるものとして、公共サービスが街中に復活することにより、駆け込み寺のようなサポート役として機能できるのではないかと考えている。市役所や商工会議所は豊富な人材を有しているので、その方々が住民と交流しコンセプトを共有することにより、取組が活性化していくと思う。

(市長)

- ・ 若い人が集まる環境を作るといえる考えは、非常に重要な視点である。

(会頭)

- ・ 若い人が集まることのできる場所が必要である。高齢化が進行しているが、高齢者が集まり、若い世代と交流できる場所が必要だと思う。
- ・ 民間の活力を活用すれば、空き家が魅力的な町宿になる可能性があるかもしれない。

(委員)

- ・ 民間だから、市民だからできる活動がある。行政が行うと公平性という考え方がネックになるが、民間同士であれば、制約条件も少なくスピード感がある取組ができる。民間に活力があるまちは魅力的なまちになる。行政には必要な時に必要なサポートをしてほしいと考えている。

(委員)

- ・ 市役所や商工会議所に頼るだけでなく、人手の面やお金の面など、自分たちの力で取組を進める必要がある。

(委員)

- ・ 住みやすいまち、子育てしやすいまちであるということをシェアすることが大切である。暮らし

のシェアを進める中で、まちを良くしていきたい。

(市長)

- ・ 様々なシェアが広がっていけば、住みやすい環境になる。逆に、市民の方がまちの中では解決できない、足りないという思考になってしまうと市外に出て行ってしまわないか。

(委員)

- ・ 市役所や商工会議所は相談を受けてから動くのではなく、民間が自主的に取組を進める中で、民間の活動に入り込み、相談があった際にはすぐに対応できる体制を整えることが重要である。

(委員)

- ・ 今回発表した内容は限られた時間内で検討したが、それでも多くのアイデアが浮かび、ノウハウなどもシェアすることができた。これから時間をかけて検討を進めていけば、より具体的な取組を構築できると思う。

(アドバイザー・伊藤氏)

- ・ 市民から見てにぎわいの姿が変化していると感じる。昔は人数、店舗数などであったと思うが、今は暮らしの豊かさに変化している。にぎわいは、量から質に変化している。
- ・ これまで市民は受け身の態勢（行政サービスの受け手）であったが、シェアすることは一人ひとりが主役となる。モノや知識を誰かにギブし、受け手はそのお礼として何かギブをするギブアンドギブの関係になる。それを実践する場が必要になってくる。
- ・ 市役所や商工会議所は、民間が必要なときに必要な相談をすることができるようにサポートをしてほしい。

(アドバイザー・江口氏)

- ・ 具体的な事業を進めると民間だけでは対応できないところが出てくるので、その際には行政に相談してほしい。

(アドバイザー・西村)

- ・ 行政と民間が一緒にやるからこそ良くなる取組、アイデアを考えていく必要がある。
- ・ 行政サービスでは上手く機能しなかったものもあると思うので、民間の技術やノウハウと公共のネットワークが連動するような取組を進めてほしい。シェアという発想をこのまちに入れ込み、すべての取組をシェアで考えてみる。

(市長)

- ・ にぎわいの域を超えて、まち全体の姿を見据えているプロジェクトであるので大変参考になった。

#### 【グループ「チーム駅 KITA（北・来）」の発表】

(委員)

- ・ チーム名は、駅北に来てほしいという理由から命名した。
- ・ 駅北における目指す姿は、お金を稼げることである。
- ・ ターゲットは、市外（乗り換え待ちのひと）、学生（お金を落としていない人）である。
- ・ 糸魚川はまちに魅力が点在しているが、それをつなげる役目が必要である。ジオパークなどに情報発信基地を作る必要があると考えている。
- ・ まちにくる必然性を作る必要がある（わざわざくるまち「糸魚川」）。学生や若者がまちを訪れるきっかけになるスペースや場所が必要であり、町中で人々の会話ができるような取組をしていき

たい。

(市長)

- お金を稼げることは大事であり、持続的な取組には不可欠である。
- 「わざわざくるまち」はとてもインパクトを感じたし、そのようなまちにしていきたい。

(会頭)

- 糸魚川には魅力的な場所やものがたくさんある。しかし宣伝下手なところもあるので、情報発信の仕組みづくり、あり方について検討が必要である。

(委員)

- 地域団体等の担い手の高齢化が問題となっている。若い人と連携し、そのまちに人が溢れるようにしたい。
- いろいろな魅力を発信する場所として駅北に拠点を構えたい。

(委員)

- 駅にひとが集まってくる活動をしたい。

(委員)

- お客様の視点に立ちながら、それぞれの場所やモノが魅力的になっているか確認する必要がある。また、会頭と同様にそれらを効果的に発信していくことが重要であると考えます。
- このまちで暮らしていく中で希望が持てるかどうか重要である。

(委員)

- 糸魚川の魅力は、色々なところに魅力があるところであり、糸魚川で事業をやっている人がそれを伝えていく必要がある。また、それぞれの魅力をつなげ、周遊性を向上させることが必要である、そのための入口（情報発信拠点）が必要である。

(市長)

- 情報発信が大切であるが、行政や市民が上手に発信できているかという点、必ずしもそうではないかもしれない。糸魚川には魅力が豊富にあるが、市民よりも市外から来た人のほうが糸魚川の魅力を知っているかもしれない。市民にまちの魅力を知ってもらう環境をつくり、情報発信をしてもらう取組を進める必要がある。

(会頭)

- 情報発信の拠点から商店街に人が流れるようにしていきたい。
- 市外の人にも復興している姿を見てもらえる施設を作っていただきたい。また、街歩きのシステム作りをしてほしい。

(アドバイザー・江口氏)

- 観光客と学生が所在なげにいるが何もしていないということを放置してはいけない。
- 例えば旅行者への提案は、取り組みやすい。必要になるのは、誰に、何を、どんなルート（情報発信の仕方）でやるかであり、それぞれ深掘りすると具体的な取組になる。

(アドバイザー・伊藤氏)

- サービスとして何を提供するのか、モノや相手が見えると具体化していくと思う。来訪者が興味を持つきっかけは製品・プロダクトであり、「ここだけにしかないもの」はとても良いキーワードである。

(アドバイザー・西村氏)

- お金を稼げるというコンセプトは良いが、現状の取組内容にはお金の臭いがしない。小さなものでよいので、お金を稼げる取組を何か一つしてみるとよい。
- 魅力発信の取組はとてもよい。魅力は成長し続けることが大切であり、多くのひとを巻き込んで情報発信してもらう取組を進める必要がある。

(市長)

- ワクワクするようなものが昔はあったが、今の大人やこどもが何にワクワクするのかを調べることが重要である。また、糸魚川にある製品や魅力をより良くする取組が必要である。

#### 【グループ「キッズドリーム」の発表】

(委員)

- ターゲットは子どもであり、子連れでも楽しめる駅北を作りたい。
- 子どものころの思い出は大人になっても覚えており、小さいときに良い思い出があれば、大学や社会人で上京しても、いつか糸魚川に帰ってきてくれると思う。
- 具体的なまちの姿は、駅前子ども同士がふれあい、商店街も回ってほしい。例えば、公園に仕掛けをして、子どもが集まる場所をつくりたい。
- また、喫茶店やママ友同士の子連れのカフェなど、家族で行くことができるふれあいの場を作りたい。

(市長)

- 子育てしている方も、家の外に出たい思いがあると思う。悩んでいることを情報交換ができる場は必要である。
- 子どもたち同士が安心して安全に遊べる場があるとよい。ゲームだけでなく、外で遊べる場が必要であると考えている。また、駄菓子屋のようところで大人と会話できることは子どもにとって成長できる場になる。

(会頭)

- 子どもが外で遊んでいる姿を見かけなくなってきた。子どもが安心安全に遊べる場は必要である。

(委員)

- 子どもたちが街中で遊んでいる姿を見なくなったと感じる。昔は地域で子どもを育てていた印象である。

(委員)

- 駅北は中心市街地であり、中心とは糸魚川の中で最先端なところである。駅北にしていると暮らしが良くなるという考えを広めていきたい。
- 現代は、親と子どもと一緒に楽しめる場所が魅力を感じる場所になっていると思う。

(委員)

- 身近にあるニーズや課題に対応することでにぎわいが発生すると感じた。

(アドバイザー・西村氏)

- 子どもの遊び方が変わってきているが、普段だとできないイベント（モノを壊すイベント）を開催すると大勢の人が参加する。
- 子どもたちが楽しく遊べる、楽しく学べる取組が重要である。

(アドバイザー・伊藤氏)

- ・ 職業体験は良い取組である。

(アドバイザー・江口氏)

- ・ コンセプトは良いので、あとは具体策を考えるだけである。

(市長)

- ・ キッズファーストの考えで、保護者も参加するなかで、子どもたちが遊びながら学べる取組になれば良いと思う。

#### 4. 市長、会頭からの講評

(市長)

- ・ にぎわいという難しいテーマの中で、子育て環境の整備を中心しつつにぎわい創出を進めていくことに対して、後押しをしていただいたと理解している。市役所としては、子育て包括支援センターの取組をベースにしながら、皆様の活動をサポートしていきたい。具体的には、子育て世帯が必要な情報収集ができるようにサポートしたい。
- ・ 最終報告を楽しみにしている。行政もサポートし、取組が大きく広がるように努力していきたい。

(会頭)

- ・ 復興のために具体的なご意見をいただき感謝している。
- ・ 商工会議所もにぎわい創出について、いろいろな角度から検討しているが、子どもや子育て世帯など、人々が集う核となる施設が必要であると考えている。

#### 5. その他

##### (1) 次回の会議について

(事務局)

- ・ 次回は12月18日(火)13:30から糸魚川商工会議所2階会議室で行う。

#### 6. 閉会

(事務局)

- ・ これにて、第4回糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議を終了する。

以上